



しりょうかんだより



No.7



きょうどしりょうかん 郷土資料館の庭には、むね どぞう 2棟の土蔵が建っています。土蔵は、家の大切な道具類を保管する倉庫です。周囲の壁が土で厚く塗り固められていて、火災にあっても中が燃えないような作りになっています。資料館の庭にあるのはいずれもころも地区に建っていたものをいちく 移築したもので、明治40年に建てられたものと明治30年代に建てられた建物です。大きさは2間×3間（約3.64m×5.45m）の2階建てで、石垣が積まれて地面から約1.3m高く、やはぎがわ はんらん 矢作川が氾濫しても中に水が入らない様になっています。土蔵の中に入ることができます。一度遊びに来てください。



とよたのれきし(中世2)

むらまちじだい (室町時代1：1338年～1573年)

鎌倉時代と同じくむらまちじだい 室町時代になっても豊田市内で最も大きいしょうえん 荘園・高橋荘の地頭であった中条氏は、勢力を保ち続けていました。拡大した高橋荘は、はん 範囲が広がったため北方・東方・西方と分けられ、それぞれに代官のような役職が置かれていました。中条氏は室町幕府内でもほうこうしゅう やくしよく 奉公衆という役職につき有力家来として認められていました。また地元では、この頃にはすでに現在のかなや ころもじょう 金谷町に衣城(金谷城)をきず ぼだいじ ちようこうじ 築き、菩提寺・長興寺を建て、支配者としての地位を固めていました。また中条氏の家来として力をつけてきたいちぞく みやけ 一族に、鈴木氏、三宅氏、なす 那須氏などがいました。



ちゅうじょうひでなが はか ちようこうじけいだい 中条秀長の墓(長興寺境内)

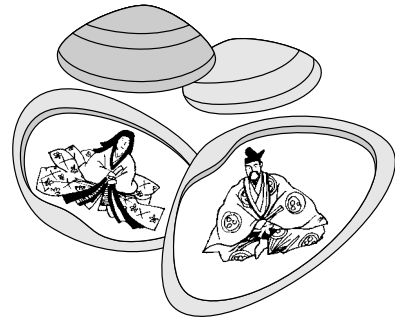
むかしのあそび
—貝あわせ—

かい
貝あわせってなあに？

「貝あわせ」とは、^{さほう}左方、^{うほう}右方の二組にわかれて、めずらしい貝を^{もち}持ち寄り、そのよさを競争するあそびです。平安時代の貴族の間でおこなわれ、貝の形や色、大きさ、めずらしさ、貝のしゅるいの多さなどで勝ち負けが決まりました。勝ち負けを決めるのは判者^{はんじゃ}という役の人で、引き分けの時は持^{もち}ていいました。しかし、このあそびは鎌倉時代にはすたれてしまいました。

一方、「貝おおい」というあそびは、はまぐりの貝がらをかたほうずつにわけ、(一つを「地貝」^{じがい}、もう一つを「出貝」^{だしがい}とよびます)地貝をふせてならべておいて、まんなかに出貝を一つづつだして、対になる地貝を多く探した方が勝ちというものです。この「貝おおい」というあそびが、「貝あわせ」とだんだんいわれるようになりました。

「貝あわせ」につかう「あわせ貝」は全部で360こです。貝の内側に、源氏物語の絵や、草花、鳥などの絵を左右に同じように描いたり、和歌の上の句と下の句をわけて描くようになりました。また、あわせ貝をいれるはこを「貝桶」といい、たいていは8角形で、地貝用のものと出貝用のものと2こで一組になってます。はまぐりは最初に対になっていた貝しかぴったりあわせられないので、縁起がよく、あわせ貝入りの貝桶は嫁入り道具の一つとなりました。



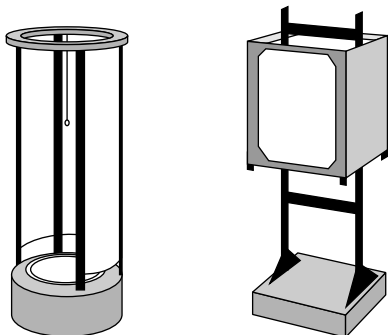
民 具

M I N G U

あ ん ど ん

あんどんは、むかしのあかりです。^{ちやうほうけい}長方形をしていて、木と和紙でできています。ろうそくをつかうので、いまのあかりとちがって、ぼんやりしたかんじのあかるさです。かいちゅうでんとうみたいなあんどんもありますが、そういうものは「がんどう」といいます。

きょうどしりょうかんのむかしのいえのなかにもあるので、ぜひみにきてください。



しりょうかんだより No.7

平成15年3月7日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。